

日本投資環境研究所 個人投資家向け IR セミナー 質疑応答 (サマリー)

(2024 年 1 月 25 日(木))

- Q 2023 年度 3Q 決算の結果は減益だったことから、株式市場では通期計画の未達を懸念する声もある。達成に向けて自信はあるか。
- A 3Q の着地は、長期化する中国市場の減速やインバータ生産に関する問題などで、売上・利益ともに社内想定には届かなかった。通期計画達成に向け、半導体市場の回復を見据えた即納体制の構築や、中国市場の回復に伴う需要を確実にキャッチアップすることに注力する。利益面については、コストの抑制や生産の効率化など自助努力による改善を図る。
- Q 中国市場減速による採算性への影響について教えてほしい。
- A 多少の影響はあるが、日本や欧米などでも内製化等の取組みを進め収益性を向上させてきたため、中国市場の減速による採算面での影響は以前に比べ限定的になっている。
- Q 中国以外の地域での戦略はあるか。
- A 米国のこれからの成長性を重視している。半導体市場や EV 投資に加え、米国内への生産回帰の流れを踏まえ、当社は現地工場を新設することで対応力を高め、顧客の期待に応えていく。米国の次は東南アジアでの投資も検討している。
- Q 2024 年度の業績見込みを教えてください。
- A 2025 年度が長期経営計画(以下長計)の最終年度であるため、2024 年度の目標は 23 年度の実績と長計目標の間の数値になると想定している。半導体市場の回復を 2024 年度上期と見込んでいることに加え、足元でも堅調な EV 関連の需要が 2024 年度上期にかけて欧米を中心に更に回復するとみている。一般産業市場でも、物流・食品・農業分野などでロボットを使った自動化が進んでいる。これらの需要に対し、i³-Mechatronics コンセプトを軸に付加価値の高い提案を積極的に行い、生産の効率化を推進することで 2024 年度の目標達成を目指したい。